

平成23年10月13・14日
REDD研究開発センター 平成23年度第1回公開セミナー

実践から学ぶREDDプラス
—国際交渉・現場と研究開発をつなぐ—

開催趣旨

(独)森林総合研究所
REDD研究開発センター長
松本光朗

現状

- COP16においてREDDプラスの大枠が合意
- COP17では運用ルールについて交渉予定
- 自主的活動の広がり
- 二国間クレジット制度の議論

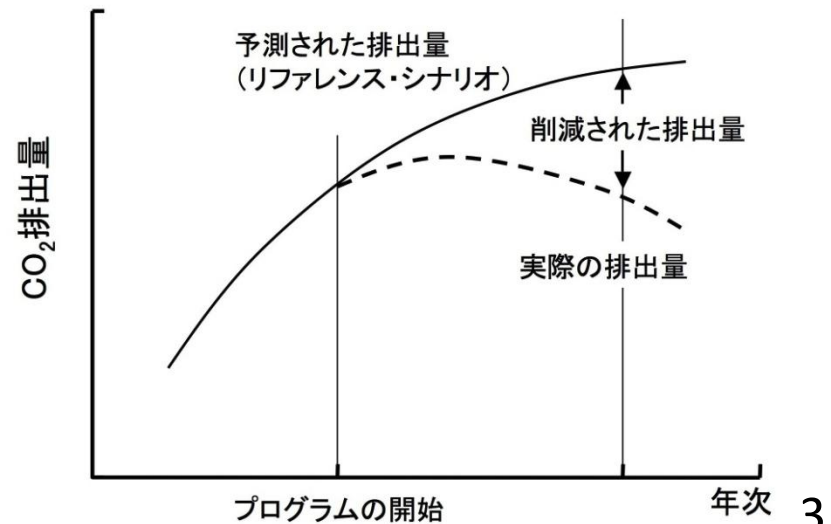
REDDプラス

途上国の森林減少・劣化からの排出削減、森林保全・持続可能な森林経営・炭素増加の役割

- 地球温暖化をもたらす二酸化炭素排出量の約2割が森林減少・劣化によるもの
- 途上国の森林保全を通じた排出削減の国際的枠組み
- 排出削減・吸収増加量に応じて経済的インセンティブを得られる仕組み
- 参照レベル設定手法、モニタリング手法等の技術的課題
- 生物多様性保全、地域経済・コミュニティへの貢献にも期待、その一方、悪影響回避のためのセーフガードも焦点



CIFOR「木はお金で育つか？」より引用



国内の課題

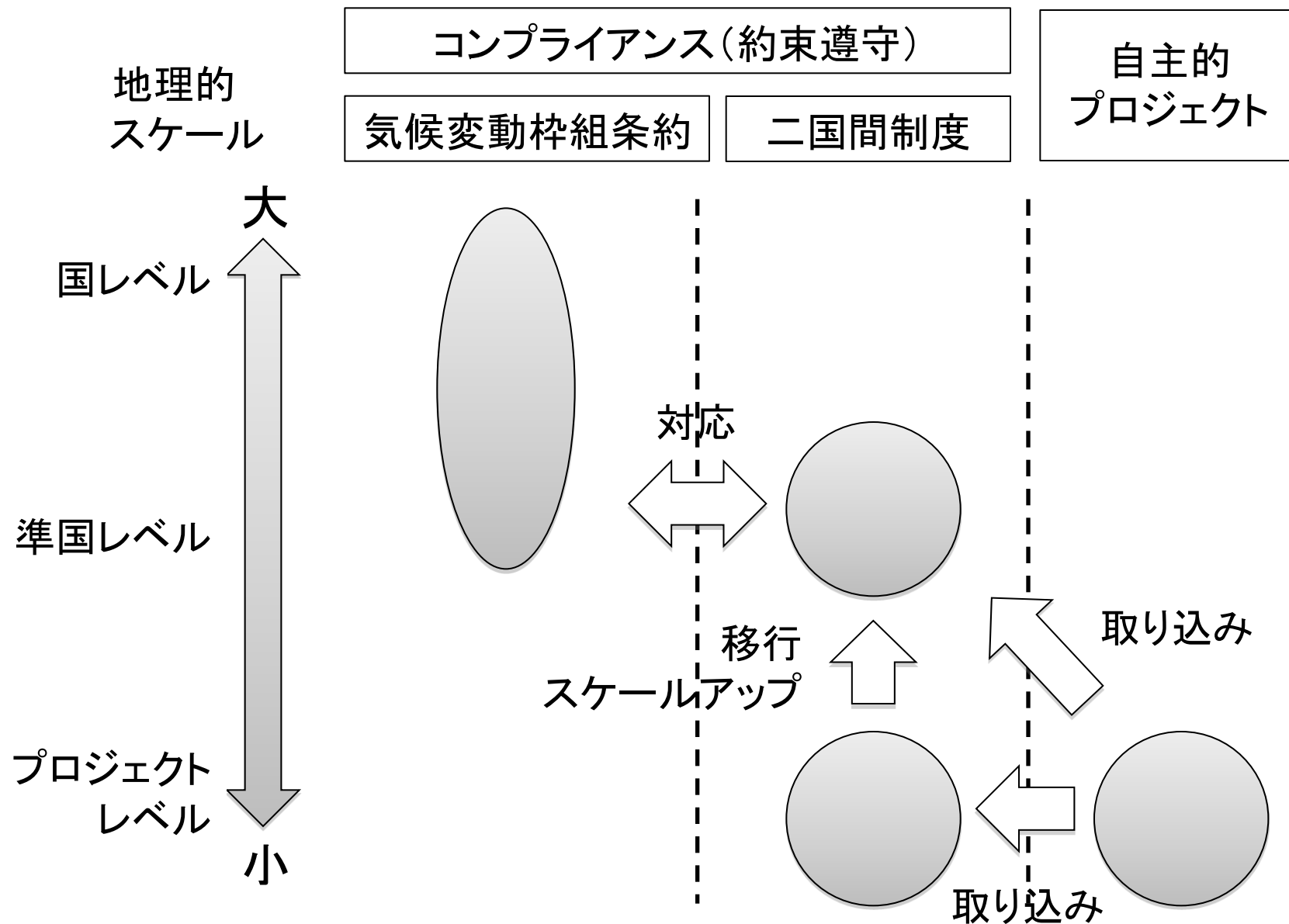
- 関係機関の連携強化
- 二国間クレジット制度への対応

セミナーの目的

1. 関係省庁、NGO、民間企業等の実務者と科学者・研究者との情報共有と連携促進を図る
2. REDDプラス実施のためのガイドライン・方法論の策定に向けた課題の共有、議論の活性化を図る

二国間クレジット制度への対応

- UNFCCCで議論されている枠組みと、先行的な自主的プロジェクトにはギャップがある
- 二国間クレジット制度では、これらを橋渡しする仕組みが必要



二国間クレジット制度への対応

- REDDプラスに対応したガイドライン・方法論が求められている

民間や海外関係機関との連携

- REDD研究開発センターは、二国間クレジットを想定したガイドライン・方法論を開発中
- 併せて、現場で利用できる技術解説書を作成中
- これにより二国間プロジェクトを支援し、その成果・経験をUNFCCCの議論に反映

プログラム

- 基調講演

気候変動交渉におけるIPCCと科学者の役割

平石 尹彦 (IGES上席研究員, IPCCインベントリタスクフォース共同議長)

- 口頭発表

- SS 1. REDDプラス その枠組みと国家戦略
- SS 2. REDDプラス 現場からの報告
- SS 3. 森林炭素モニタリングへの道筋
- SS 4. REDDプラスのガバナンス、セーフガード
- SS 5. REDDプラスの制度設計

- ポスター発表・コアタイム

- 13日 : 13:00-13:50
- 14日 : 12:30-12:50

Join us